

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成20年7月17日(2008.7.17)

【公表番号】特表2008-503217(P2008-503217A)

【公表日】平成20年2月7日(2008.2.7)

【年通号数】公開・登録公報2008-005

【出願番号】特願2007-516805(P2007-516805)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 1 2 P 21/02 (2006.01)

C 1 2 Q 1/04 (2006.01)

C 1 2 N 1/15 (2006.01)

C 1 2 N 1/19 (2006.01)

C 1 2 N 1/21 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

C 0 7 K 16/00 (2006.01)

C 0 7 K 19/00 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 37/02 (2006.01)

G 0 1 N 33/53 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 1 2 P 21/02 C

C 1 2 Q 1/04

C 1 2 N 1/15

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 1/21

C 1 2 N 5/00 A

C 0 7 K 16/00

C 0 7 K 19/00

A 6 1 K 39/395 Y

A 6 1 K 39/395 V

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 37/02

G 0 1 N 33/53 Y

【手続補正書】

【提出日】平成20年5月27日(2008.5.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

1 つ以上の非天然コードアミノ酸を含む、抗原結合ポリペプチド。

【請求項 2】

抗原結合ポリペプチドが 1 つ以上の翻訳後修飾を含む、請求項 1 に記載の抗原結合ポリ

ペプチド。

【請求項 3】

抗原結合ポリペプチドがリンカー、ポリマー又は生物活性分子に連結されている、請求項 1 に記載の抗原結合ポリペプチド。

【請求項 4】

抗原結合ポリペプチドをコードするポリヌクレオチドであって、少なくとも 1 個のセクターコドンを含む前記ポリヌクレオチドに対してストリンジントな条件下でハイブリダイズするポリヌクレオチドを含む、単離核酸。

【請求項 5】

請求項 3 に記載の抗原結合ポリペプチドを調製する方法であって、非天然コードアミノ酸を含む単離抗原結合ポリペプチドを、該非天然コードアミノ酸と反応する部分を含む、リンカー、ポリマー又は生物活性分子と接触させることを含む、前記方法。

【請求項 6】

請求項 1 に記載の抗原結合ポリペプチドと、医薬的に許容される担体と、を含む組成物。

【請求項 7】

請求項 6 に記載の組成物の治療的有効量を患者に投与することを含む、A B P により調節される疾患を有する患者を治療する方法。

【請求項 8】

請求項 4 に記載の核酸を含む細胞。

【請求項 9】

非天然コードアミノ酸を含む抗原結合ポリペプチドを調製する方法であって、非天然コードアミノ酸を含む抗原結合ポリペプチドの発現が可能な条件下で、セクターコドンを含む抗原結合ポリペプチドをコードするポリヌクレオチド（1 つ又は複数）、直交化 R N A シンテターゼ及び直交化 t R N A を含む細胞を培養すること、及び抗原結合ポリペプチドを精製することを含む、前記方法。

【請求項 10】

抗原結合ポリペプチドの、血清半減期又は循環時間を調節する方法であって、抗原結合ポリペプチドにおいて、任意の 1 つ以上の天然アミノ酸を 1 つ以上の非天然コードアミノ酸で置換することを含む、前記方法。

【請求項 11】

セクターコドンを含むポリヌクレオチドによりコードされる抗原結合ポリペプチドであって、少なくとも 1 つの非天然コードアミノ酸を含む、前記ポリペプチド。

【請求項 12】

請求項 11 に記載の抗原結合ポリペプチドと、医薬的に許容される担体と、を含む組成物。

【請求項 13】

互いに連結している第 1 の A B P と第 2 の A B P とを含む二重特異性 A B P であって、前記第 1 の A B P と前記第 2 の A B P は、異なるエピトープに特異的に結合し、前記第 1 の A B P は、第 1 の抗原上の少なくとも 1 個のエピトープに対する結合特異性を有し、第 2 の A B P は、前記第 1 のエピトープとは異なる、第 1 の抗原又は第 2 の抗原上の第 2 のエピトープに対する結合特異性を有しており、少なくとも 1 つの非天然コードアミノ酸を含む、前記二重特異性 A B P 。

【請求項 14】

請求項 13 に記載の二重特異性 A B P と、医薬的に許容される担体と、を含む組成物。

【請求項 15】

疾患又は状態を治療する方法であって、治療を必要とする患者に請求項 14 に記載の組成物の治療的有効量を投与することを含む、前記方法。

【請求項 16】

生物活性分子と組み合わせた、請求項 13 に記載の二重特異性 A B P を含む、A B P 。

【請求項 17】

1つ以上の抗原を発現する細胞又は組織を検出する方法であって、検出可能な標識を結合させた請求項13に記載のA B Pと細胞又は組織を接触させること、及び前記標識を検出することを含み、細胞又は組織に会合した前記標識の検出は、A B Pによって結合された1つ以上の抗原を発現する細胞又は組織の存在を示す、前記方法。

【請求項 18】

水溶性ポリマーを抗原結合ポリペプチドに対する単一アミノ酸での共有結合によって連結して含む、抗原結合ポリペプチド。

【請求項 19】

少なくとも1個のリンカー、ポリマー又は生物活性分子を含む抗原結合ポリペプチドであって、前記リンカー、ポリマー又は生物活性分子が、リボソームによりポリペプチドに取り込まれる非天然コードアミノ酸の官能基を介してポリペプチドに結合される、前記抗原結合ポリペプチド。

【請求項 20】

1つ以上の非天然コードアミノ酸に結合しているリンカー、ポリマー又は生物活性分子を含有する抗原結合ポリペプチドであって、前記非天然コードアミノ酸が、リボソームにより事前選択部位でポリペプチドに取り込まれる、前記抗原結合ポリペプチド。

【請求項 21】

抗原結合ポリペプチドの免疫原性を調節する方法であって、抗原結合ポリペプチドでの、任意の1つ以上の天然アミノ酸を1つ以上の非天然コードアミノ酸で置換することを含む、前記方法。

【請求項 22】

ポリペプチドが配列番号19、21、23、24、26、28、30、31又はそれらの断片からなる群から選択される、抗原結合ポリペプチド。

【請求項 23】

抗原結合ポリペプチドが変性条件下で、リンカー、ポリマー又は生物活性分子に連結される、請求項3に記載の抗原結合ポリペプチド。